

2016 年度前期 学術文章作法 I 最終レポート評価基準

序論	テーマの背景	テーマの背景や現状、その重要性について適切に言及している。	テーマの背景や現状、その重要性について言及しているものの、不十分な点がある。	テーマについての背景や現状、その重要性について言及できていない。
	問題提起（視角）	テーマについて、何が問題であるかが明確に言及できている。	問題が絞りがちでないか、問題提起の仕方が不適切。	問題を提起していない。
	3つの論点の設定	3つの論点を設定し、適切に言及している。	論点が2つしかない。または論点が不明確。	論点が1つしかない。または読み手に論点が判断できない。
本論	パラグラフ・ライティング (D3,4,5,6)	段落の中心となる話題が最初に述べられている。続いて、客観的で具体的な内容が記述されている。最後の一文で段落がまとめられている。	概ねできているが、不十分なところがある。	パラグラフ・ライティングが全くできていない。
	事実の提示 (N3)	根拠として適切な具体例、データ、事実などが挙げられている。	具体例、データ、事実などは挙げられているが、根拠として不十分。	未提示。または信憑性がないか、関連のない例を提示している。
結論	全体の簡潔なまとめ	本論までで述べたことが、簡潔且つ明確にまとめられている。	本論までで述べたことに言及してはいるが、まとめとして不十分。	まとめができていない。または、本論で述べたこと以外に言及している。
	自分の考え	レポートでとりあげたテーマや内容に対し、理由を伴って自分の考えが述べられている。	レポートでとりあげたテーマや内容に対し、自分の考えは述べているが、理由が欠けている。	自分の考えが述べられていない。または、レポートでとりあげたテーマや内容と関係がない。
全体	全体の一貫性	序論・本論・結論に一貫性がある。	問題提起と結論は対応しているが、その過程で欠ける所がある。	問題提起と結論が対応していない。
形式	表記 (M1~M6)	問題なし。	一部不適切な箇所がある。	不適切な箇所が目立つ。
	学術的な表現 (H1)	問題なし。	一部不適切な箇所がある。	不適切な箇所が目立つ。
	文の適切さ (B1~B3,H2)	日本語として適切な文が書けている。	一部不適切な箇所がある。	不適切な箇所が目立つ。
	引用 (I1)	引用形式が守られ、他人の意見と自分の意見が明確に区別されている。	意見の区別は読み手に判断できるが、引用形式に軽度なミスがある。	引用形式に重大なミスが目立つ。意見の区別が読み手に判断しにくい。(注1)
	参考文献リスト (I2)	形式が守れている。	形式に軽度なミスがある。	形式にミスが多い。(注2)

(注1、2)引用形式を用いていない、意見の区別が判断できない、参考文献リストがない、不備がある場合は、0点

※()内のコードはあくまで参考で、コード表に記されたような事柄が対象になるという目安にしてください。

問題提起 (イシュー)



レポートの主張

序論

本論

第1段落：トピックセンテンス

第2段落：トピックセンテンス

第3段落：トピックセンテンス

文献からの情報

文献からの情報

文献からの情報

第1段落：コンクルーディングセンテンス

第2段落：コンクルーディングセンテンス

第3段落：コンクルーディングセンテンス

序論の主張と対応
(同じ文章は避ける)

結論